

3月8日(月)

## 必要なもの全て

聖書朗読 II ペテロ 1:3~11

このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。コロサイ 1:29

何かを組み立てていて出来上がったと思ったら、部品の一部を取り付けることを忘れていたと気付いたことはありませんか？ もしくは、正しく組み立てたと思っていたのに、余るはずのない部品が手元に残っていたことはありませんか？ このような状況になると、がっかりするシイライラしてしまいますよね。

幸いなことに神様は、私たちを奉仕者として整えて下さる際、上記のようなミスをなさいません。神様は、奉仕者として私たちが必要とするものを、過不足なく備えて下さいます。ペテロも、神は「いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えて下さると書いています (II ペテロ 1:3)。このように、神様は、私たちが「必要とするもの全て」を備えて下さるのです。つまり、私たちは、神様に従いお仕えしていく者として、その必要をすべて備えて頂いているのです。

では、私たちが必要としていて神様が備えて下さるものとは、どのようなものでしょうか。それは、信仰、徳、知識、自制、忍耐、敬虔、兄弟愛等です。これらが神様から与えられることにより、私たちの信仰者としての歩みは、有益で実を結ぶ歩みとなります。そして、使徒パウロも言っていますが、私たちは（自分自身の力に拠り頼むのではなく）「自分のうちに力強く働くキリストの力によって」歩んでいくことが出来るのです。「神様に奉仕する者としての必要をすべて満たして頂き、歩んで行ける」とは、素晴らしい祝福ではありませんか。

讃美歌 321

祈り 親愛なる神様、私たちの必要を満たして下さい、感謝します。御名を賛美致します。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

J・リチャード・トンプソン  
テネシー州ナッシュビル

## 今日のカ

2021年3月8日~3月14日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

3月9日(火)

## 光の中を歩む

聖書朗読 Iヨハネ 1:5~10

光の中にいると言いながら、兄弟を憎んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。 Iヨハネ 2:9

私は、光の中を歩みたいと思っています。しかし、気付くと、光ではなく闇の中を歩んでしまっている時があります。どうしてそのようなことになるのでしょうか。神様から目を離し、神様が導いて下さる道を歩まないで、気が付いたら闇の道(罪の道)に迷い込んでいる、という場合もあります。また、(私たちを先導して下さる)神様を無視して、(先導者であられる)神様よりも先に出て、勝手な道を歩み、その結果気が付いたら闇に迷い込んでいた、という場合もあります。いずれにしても、神様に導いて頂くことをやめてしまうこと(神様よりも自分自身を中心にする、つまり罪)は、私たちを光から遠ざけ、私たちを闇へと導いてしまうのです。罪は、いつも全てのことを(悪い方向へと)変えてしまいます。神様の光のもとへと立ち帰るためには、私たちが、(自分中心ではなく)神様を中心にして生活していくことが何よりも大切です。神様から目を離したり、先導して下さる神様より先に行こうとしたりする生活は、神様を中心にした生活ではありません。神様を中心にして、そして神様と共に歩むことが大切なのです。

私たちは、神様から目を離しがちで、罪を犯しがちです。しかし、私たちが罪を告白するならば、神様は、(イエス様の十字架を通して)私たちの罪をきよめて下さり、私たちを再び光へと導いて下さいます。そして私たちが、祈りを通して神様と繋がり、光のうちに歩む時、私たちは神様の御言葉によって養われ、「人のすべての考えにまさる神の平安」(ピリピ4:7)を頂くことが出来るのです。

光に歩めよ そうすれば すべてを御手に治めておられる方より

その方の愛と 深い御霊の交わりを頂くことが出来るのです

(バーナード・バートン)

讃美歌 326

祈り 愛なるお父様、イエス様の犠牲により私たちの罪がきよめられていることに感謝します。その深い愛に感謝致します。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ノーマ・プリビット

カリフォルニア州サウザンドオークス

3月10日(水)

## 流されないで

聖書朗読 Iヨハネ 2:15~17

彼らをこの世から取り去って下さるようというのではなく、悪い者から守って下さるようお願いします。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。 ヨハネ 17:15~16

この世の考え方と、神様が教えておられる生き方は、対照的とも言えます。

この世では「巧みに世を渡れ! 他者に負けるな! 自立せよ!」と言われることが多いのではないのでしょうか。しかし神様は、愚かさや弱さを神様の栄光のために使うようにと仰っています。愚かさや弱さを通して、神様の栄光が現わされるのです。

また、この世は競争社会です。トップに昇り詰めることを重要視し、己の利益になることだけをするようにとの考えもあります。しかし神様は、互いに助け合うよう教えておられ、謙遜を身に付けるよう教えておられます。主イエスが弟子たちの足を洗って下さった態度には、神が教える謙虚さが現わされています。

また、この世では、貧しい人とは関わらず、自分自身のために快適で心地の良い生活をひたすら求めることが良しとされがちです。そしてそのためには、他者に対して一切妥協しないような態度を持つことが大切だと言われる場合もあります。しかし神様は、助けを必要としている人々に手を差し伸べる時にこそ、私たち自身も祝福されると教えておられます。この世が提供する快適さよりも、神様が下さる平安のほうがより豊かで優れていることを教えておられます。そして、他者に対し愛をもって接するとき、私たちは、本当の意味での「恵み」に満たされるのです。

この世の考え方では、自分の権利をひたすら主張することが良しとされる場合があります。(もちろん、人が持つ権利は、大切ではありますが)、「右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい」と主は言われました。権利の主張をする際でも、私たちは、神の愛と哀れみを忘れるべきではありません。

讃美歌 338

祈り 神様、日々この世の考え方に流されないよう、また御心に従い生きて行けるよう導いて下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ダニー・メイズ

テキサス州アマリロ

3月11日 (木)

## 救いの確かさ

聖書朗読 Iヨハネ 3:13~27

私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。  
Iヨハネ 5:13

救いの確信を持ってないクリスチャンについて、ある作家は次のように言っています。「神様が自分をクリスチャンにして下さったことに感動するよりも、こんな自分でも本当にクリスチャンと言えるのだろうか」と心配しがちである。また、救いの恵みを素直に受け取るのではなく、自分も神様が受け入れて下さるよう頑張らなくては、と考えがちである」と。

私たちは、自分の欠点や弱さについてよく知っています。そして、自分の弱さや欠点だけに目を向けると、「自分は価値のない存在だ」と感じてしまうかもしれません。しかしヨハネは、次のように言うのです。救いとは、私たちがイエス様に対して何かをしたから与えられるものではなく、イエス様が（自ら犠牲となり）私たちへ与えて下さったものだ、と。ゆえに、Iヨハネ3:19-20では次のように書いています

・・・私たちは、自分が真理に属するものであることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。たとい自分の心が責めてもです。なぜなら、神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご存じだからです。

ヨハネが「ヨハネの手紙・第一」を書いた主要目的は、私たちが永遠のいのちを持っていることを確実に「知る」ことが出来るためでした。神様は、私たちの弱さも、人知れず抱えている様々な悩みもすべてご存知です。また、私たちの心の痛みをもご存知です。祈りをもって、神様を求めるとき、神様は必ず私たちに求めに応じて下さり、私たちに寄り添って下さり、私たちの罪をすべてきよめて下さいます。私たちが自分がかかりやすいような（信仰上の）大きな失敗をしたとしても、神様は私たちの罪をすべて赦して下さいます。（Iヨハネ1:9）。神様から私たちに与えられている救いは、このように確かに素晴らしいものなのです！

讃美歌 529

祈り 聖なるお父様、一人子であるイエス様の犠牲により、私たちに救いが与えられたことに感謝いたします。  
イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

リチャード・N・アディ  
オレゴン州グレシャム

3月12日 (金)

## 信仰の先達たち

聖書朗読 エペソ 6:16~24

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまとわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐を持って走り続けようではありませんか。ヘブル12:1

（聖書に収められている）パウロが書いた手紙は、締めくくりの挨拶の部分で沢山の人名を記しています。恐らくパウロは、人物名を記すことによって、「このような素晴らしいクリスチャンたちがいた」ということを、手紙の読者たちに知って欲しかったのでしょう。パウロは、遠く離れた場所にいるクリスチャン同士が、互いの働きを聞き知り、神様の愛を（手紙を通して）分かち合うことを願ったのでしょう。

今回発行の『今日の力』には（訳注：原書である英語版の『今日の力』の2021年1月~3月号のこと）、私たちの信仰の先輩方ですでに天に召された方々が、かつて書いて下さった原稿も掲載されています——すなわち、ジョアン・クレイトン、ジュエル・クラークストーン、スタッフォード・ノース、そしてトム・オルブライトといった方々の原稿です。私たちは、（生前、彼らが捧げた）主のための素晴らしい奉仕を忘れません。そして彼らの奉仕は、（パウロが手紙の最後の部分で書き記した人物たちのように）面と向かっては会ったことのない、地理的に遠くにいるクリスチャンたちにも励ましとなりました。彼らが、主の愛を分かち合うために、かつて『今日の力』に寄稿して下さったことを今改めて感謝しています。彼らは、既に召されましたが、彼らが書き残した文章は、キリストを証するメッセージとして「雲のように私たちを取り巻いている」と言えましょう。

私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、  
恵みがありますように。（エペソ6:24）

讃美歌 162

祈り 素晴らしい信仰の先輩たちの言葉により、あなたをより一層理解出来ることに感謝します。今日の私たちの生活を、言葉と行動で励まし、人々をあなたの光にお導き下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ステイーブン・S・レムリー  
『今日の力』編集者

3月13日(土)

## 新しい心

聖書朗読 ヨハネ 3:1~15

あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

エゼキエル 36:26

こんなシーンを映画で観たことはありませんか。ヘリコプターが着陸し、中から医療スタッフが足早に降りてきます。そこには救急車が待機していて、ヘリコプターから降りてきたスタッフは、移植用の臓器が入ったケースを救急車に注意深く積み込みます。そして救急車は、すぐに病院へと向かい、病院では、待ち構えていた病院関係者が、大切にその臓器が入った入れ物を受け取ります。病院の医療チームは、移植手術の準備万端です。この手術を待っていた患者は、(移植が出来なければ)余命一週間程度です。この患者は、大至急心臓の移植を必要としていたのです。そして、遂に移植手術が行われました！動脈が接続され、手術のために一旦開かれた胸も、閉じられました。そして、そのままでは余命僅かと言われていたこの患者は、新しい心臓を頂いて、再び元気に生活することが出来たのです。

神様は、私たちの目には見えない、霊的な意味での「心」を新しくして下さる、と言っておられます。つまり、石のような固く冷えてしまった心から、神様の愛に溢れる温かな心へと、私たちの心を新しくして下さるのです。これについて、主イエスは「水と御霊によって(新しく)生まれ」ることだとおっしゃっています(ヨハネ3:5)。心を新しく造り変えて頂くことにより、私たちは永遠のいのちを頂くことが出来ます。そして、新しく造り変えて頂いた心は、「主イエスが救い主であられる」という信仰を育むことが出来ます。そして、私たちの閉じられた(霊的な)目も開かれ、神様の臨在を信仰の目によって知ることが出来るようになるのです。

讃美歌 352

祈り 全ての創造主である神様、日々新しい者とされることに感謝します。御心に従い生きて行けるよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

エミリー・Y・レムリー  
『今日の力』編集者

3月14日(日)

## 祝福を分かち合う

聖書朗読 申命記 15:7~11

盗みをしている者は、もう盗んではいけません。かえって、困っている人に施しをするため、自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい。エペソ 4:28

新型コロナウイルスが流行り始めたころに、消毒液やマスクなどの買いだめがあったことを覚えていますか？ 私たちは、神様の祝福を、霊的にも物質的にも「蓄えて分かち合う」ことが出来ます。神様は、いつでも私たちに祝福を与えて下さろうとしています。そして、私たちがそれを喜んで受け取り、他者と分かち合っていくことを望んでおられます。「神様からの祝福を私たちが他者と分かち合う」ということ自体、それは、私たちにとって祝福の一つです！

エペソ4章でパウロは、「誠実に働くこと」と「助けを必要としている方々への施し」の重要性について書いています。(現役の社会人は)労働をし、経済的恵みを蓄えることが出来ます。しかし、その経済的恵みは、その人自身のためだけでなく、困っている方々を助けるために用いることも出来ます(参照、ルカ12:15)。

箴言の著者は、次のように言っています。「貧しい者に施しをするのは、主に貸すこと。主がその行いに報いて下さる」(箴言19:17)。私たちも、困っている方々にもっと関心を寄せて、私たちが頂いている恵みを分かち合うことが出来ます。そして、その時大切なことは、パウロの次の言葉に表されていると言えましょう。「何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい(ピリピ2:3)」。

寛大に態度で、どなたかと恵みを分かち合うことは、「分かち合う本人」にとっても大いなる祝福なのです。神様からの祝福を頂きながら、それを分かち合う歩みを、あなたもしてみませんか？

讃美歌 II編26

祈り 神様、私たちは、つい自分勝手になりがちです。他者に関心を持ち、恵みを分かち合うものとして、私たちをお用い下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マーク・R・ガイ  
オハイオ州ウエストキャロルトン